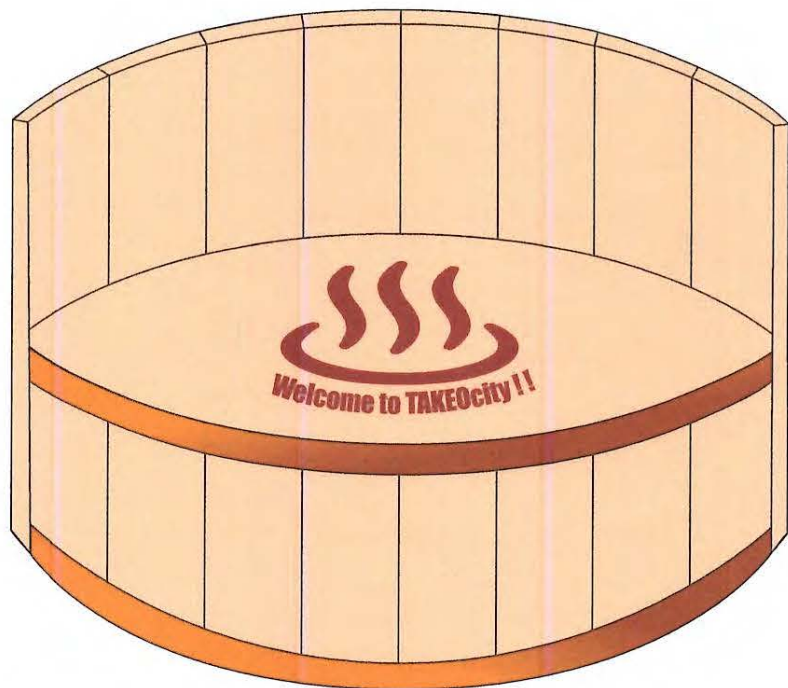
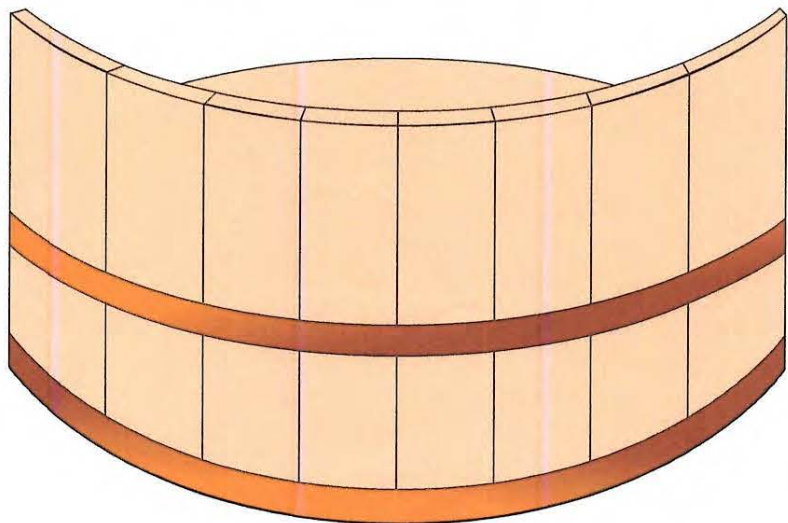


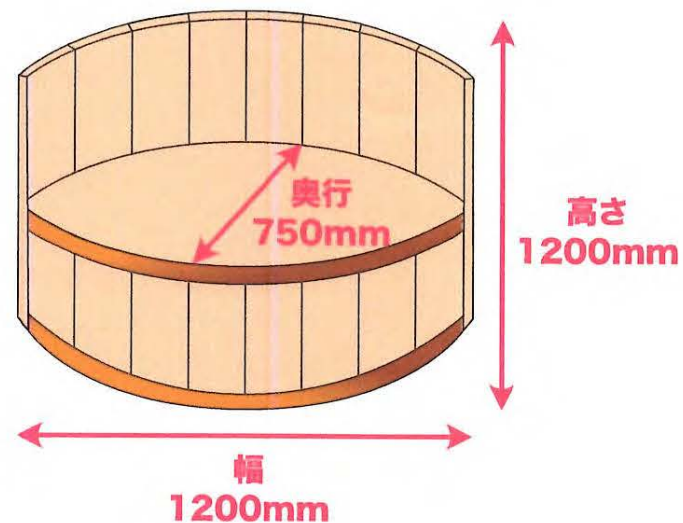
表



裏



規格



座面



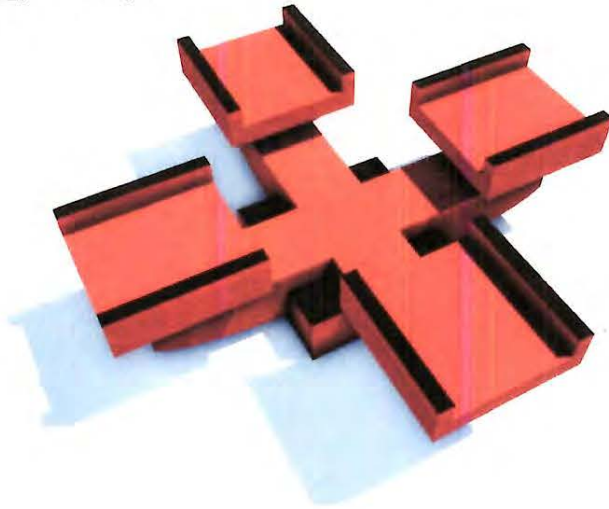
【風呂桶型ベンチ】

巨大な風呂桶のようなベンチです。

ベンチの裏から撮影すると、人がまるで風呂桶に入っているような写真を撮ることができます。

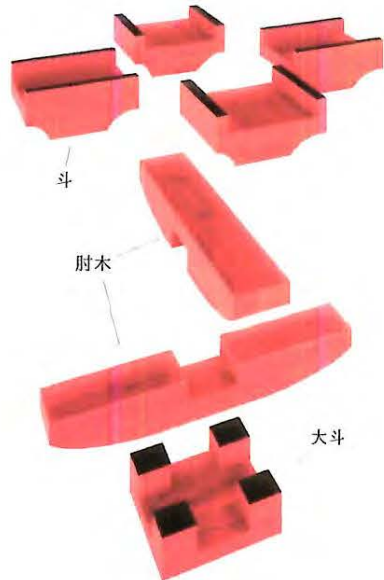


斗組ベンチ



武雄市のシンボル

武雄市には建築家の辰野金吾氏が設計した武雄温泉楼門と武雄温泉新館がある。いずれも国の重要文化財に指定されており武雄温泉のシンボルとなっている。そこで今回はそれらの建築に使われている伝統工法である斗組をモチーフにしたベンチをデザインした。このベンチが武雄の新しいシンボルとなることを願っている。



構成

材料には水に強く狂いが少ないため寺社仏閣にも使用されるヒノキを使用する。ヒノキは伐採後から強度が増してゆき、100年持つといわれている。また、そのヒノキを仕上げとして楼門の色と同じ赤色に塗装する。

構成としては下から大斗、肘木、斗を順番に組んでいく実際の斗組と同じ構成である。釘を使わずに建てられた楼門の斗組を再現することでベンチとしてのみならず斗組の拡大模型として、子供たちが重要文化財に用いられた伝統工法を学ぶ教材としても機能する。

・利用イメージ



うちむき

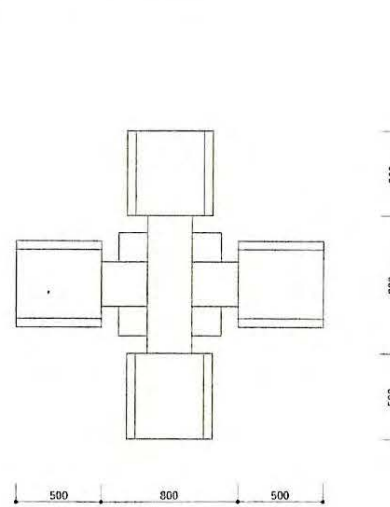
知り合い同士で座るときは内向きに座る。それぞれの距離が近くなるので自然と会話が弾むソシオベタルなベンチとなる。また、大斗の部分が踏み台になり背の低い子供でも安全に上ることができる。



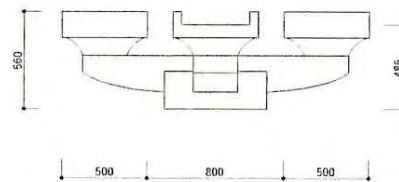
そとむき

一人で座るときには外向きで座る。利用者全員が顔の合わないので読書などに適したプライバシー性の高いソシオファーガルなベンチとなる。また、シンボリックなデザインや色であるためベンチ自体が待ち合わせスポットになり得る。

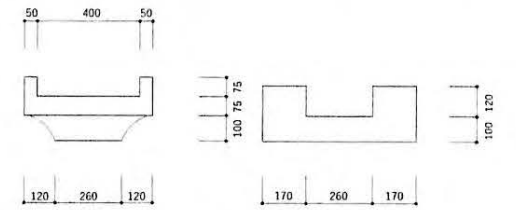
・図面



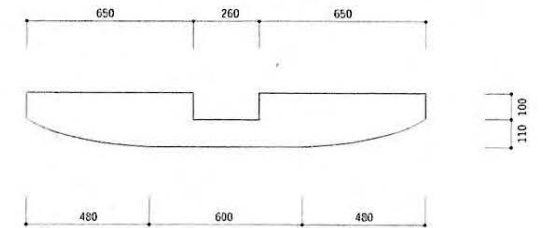
上面図 S=1:30



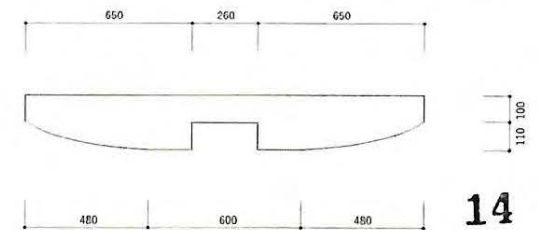
立面図 S=1:30



斗 (座部) 図面 S=1:20 大斗 図面 S=1:20



肘木 (下) 図面 S=1:20

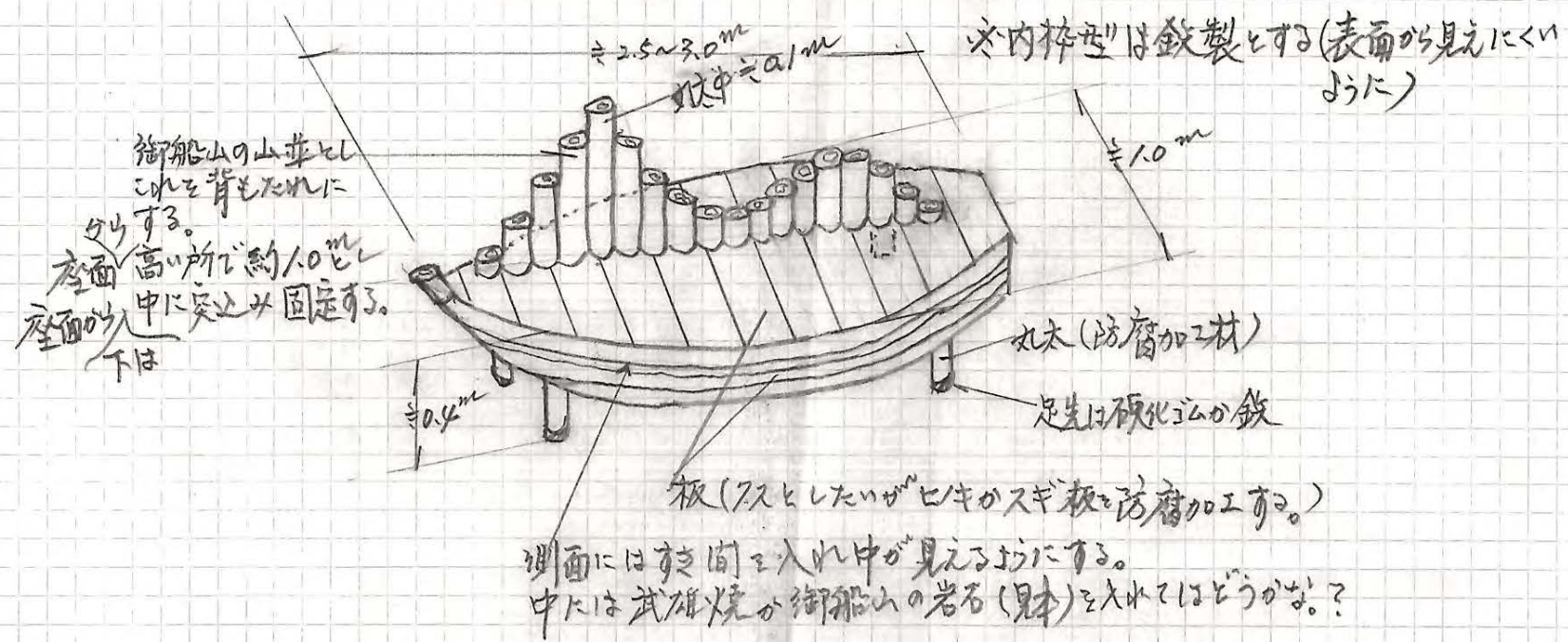


肘木 (上) 図面 S=1:20

1/6

④ 御船山と神功皇后の船 (見取図)

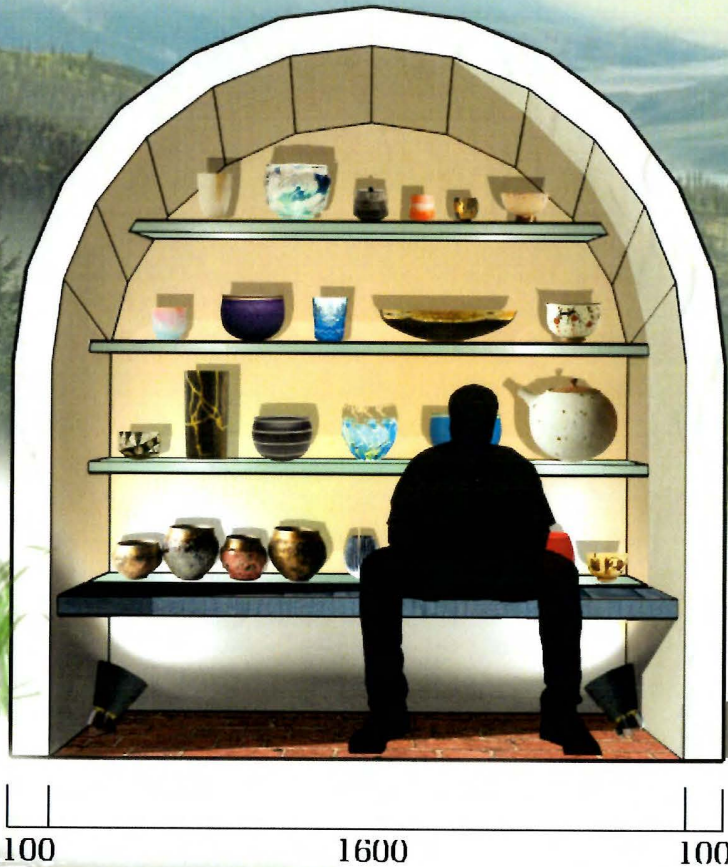
神功皇后の船と、船をつないだと思われる山 (御船山) をモデルにしました。



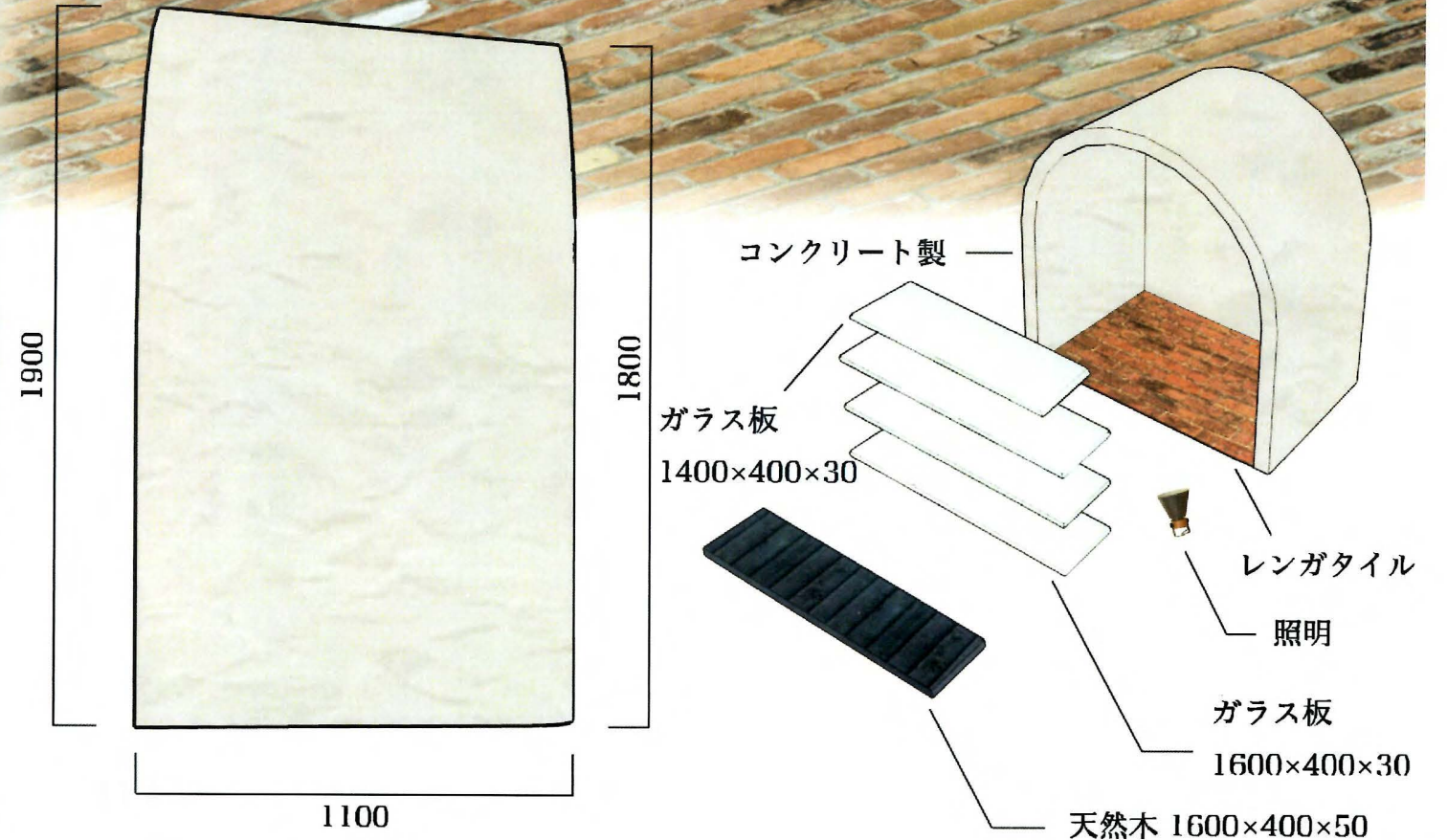
焼き窯ベンチ

陶芸における焼成は、いよいよ完成一つ手前の重要な工程です。焼き終えて、窯出しまでの待ち時間がなんとも言えないワクワクドキドキな感情に駆られます。そんな工程をベンチに具現化することに努めました。

・ライトアップによる焼成の雰囲気
棚はガラス板を設け、光が窯の中全体に行き届くように工夫



・かまぼこ形状による窯の雰囲気
前部を高く、後部を低く設定して奥行き感を出すように工夫



PRODUCT NAME **LOST Japanese Zodiac - Bench**

Concept
 「大人の為のインスタ映え」をコンセプトにしたベンチ。トリックアートを用いた本ベンチは、ベンチのみならず地面に図柄を描くことにより、撮影時にベンチからの適正な距離と、地面からの高さがマッチした場合のみ動物の図柄が空中に浮かび上がるようになっている。武蔵野図書館を始め、建築、陶芸、温泉、自然などが豊富な武蔵野市県外から来られる観光客の多くは、文化的側面に重きを置かれた方（30〜50代）が多いと予想される。その為、図柄には原野金吾設計の武蔵温泉権門に彫られている子、卯、午、酉の1本線イラストを使用し、ポップ過ぎない大人の為のフォトスポットに仕上げた。面図柄のみ変更した4つのベンチを街中に点在させる事により、東京駅に無い4つ干支を街中で見つけ出すスタンプラリーのように楽しんで頂く事ができる。

3Dデータを用いて2D上の図柄を作成し、耐水性のインクにてプリントもしくは描画を行う。

- ・ベンチ置き位置ズレを防止する為重量のある鉄筋コンクリート材質
- ・コンクリート表面はマットなオフホワイト塗装により仕上げ
- ・複雑な加工が無い為制作時のコストカット→地面へのプリント費へ回せる

「トリックアートの仕組み」
 ベンチから撮影者立ち位置までの適正な距離と地面からのカメラまでの高さ（左図内の赤矢印線）がマッチした場合のみ地面とベンチ上の2Dの図柄が空中に3Dのように浮かび上がるシステム。

1800

材質：RC

450

250

300

卯

子

酉



武雄市観光協会HPより



新館浴室

Takeo's Symbol

— 武雄のシンボル —

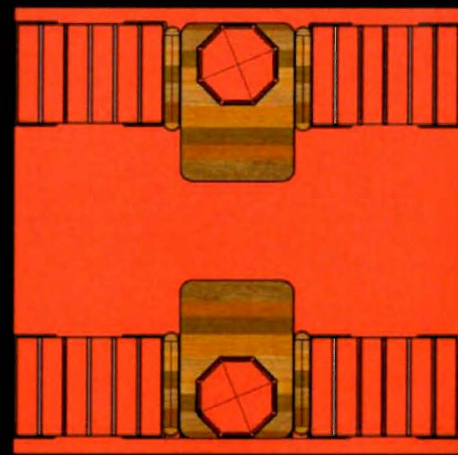
国の重要文化財である武雄温泉楼門・新館は武雄のシンボルといえる。設計した辰野金吾は没後100年を今年迎えた。

それをモチーフにベンチを設計した。

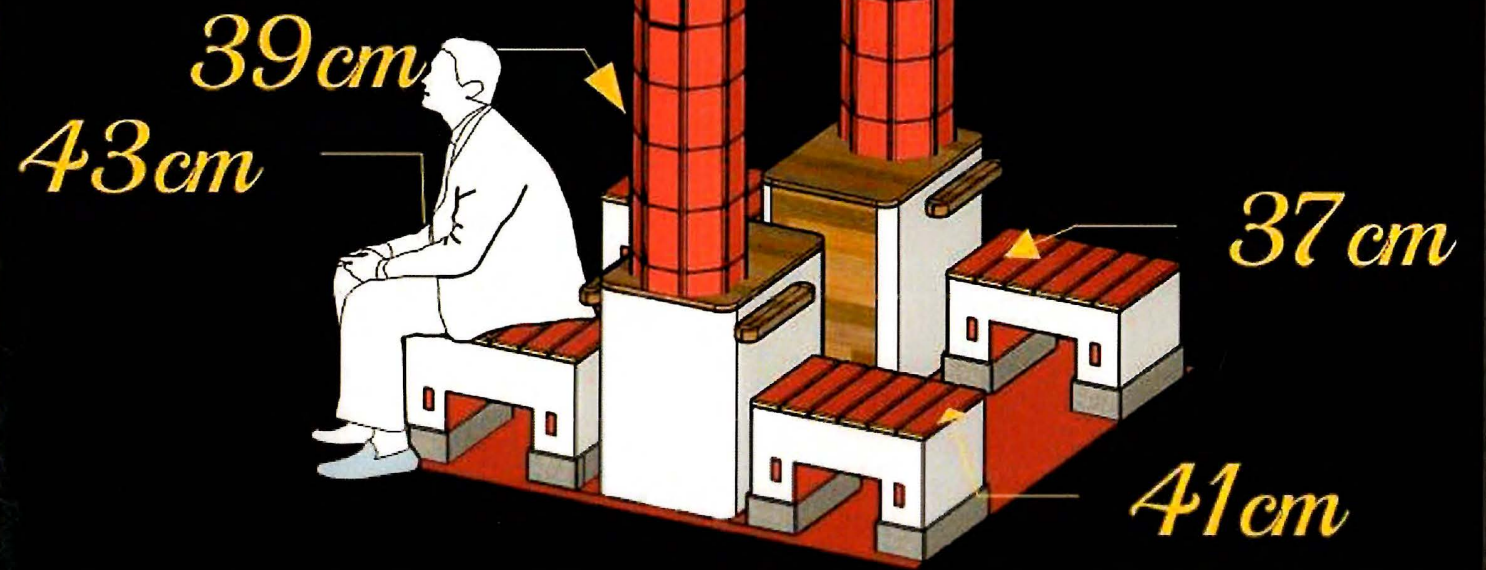
- ・座いす部分は楼門1階漆喰の礎石部
- ・座板は朱塗りの2階床であり、回り縁下である。
- ・八角形の柱は新館裏側にある八角形をした旧浴室の朱塗り鎧壁の外壁
- ・屋根は楼門の入母屋屋根をそれぞれモチーフとした。

武雄市ユニバーサルデザイン推進活動にも賛同しベンチの高さを4種類にし子供たちにユニバーサルデザインを学ぶ教材とした。将来、高齢者、子供、障がい者のことを考える社会人になってもらいたいと願いを込めた。

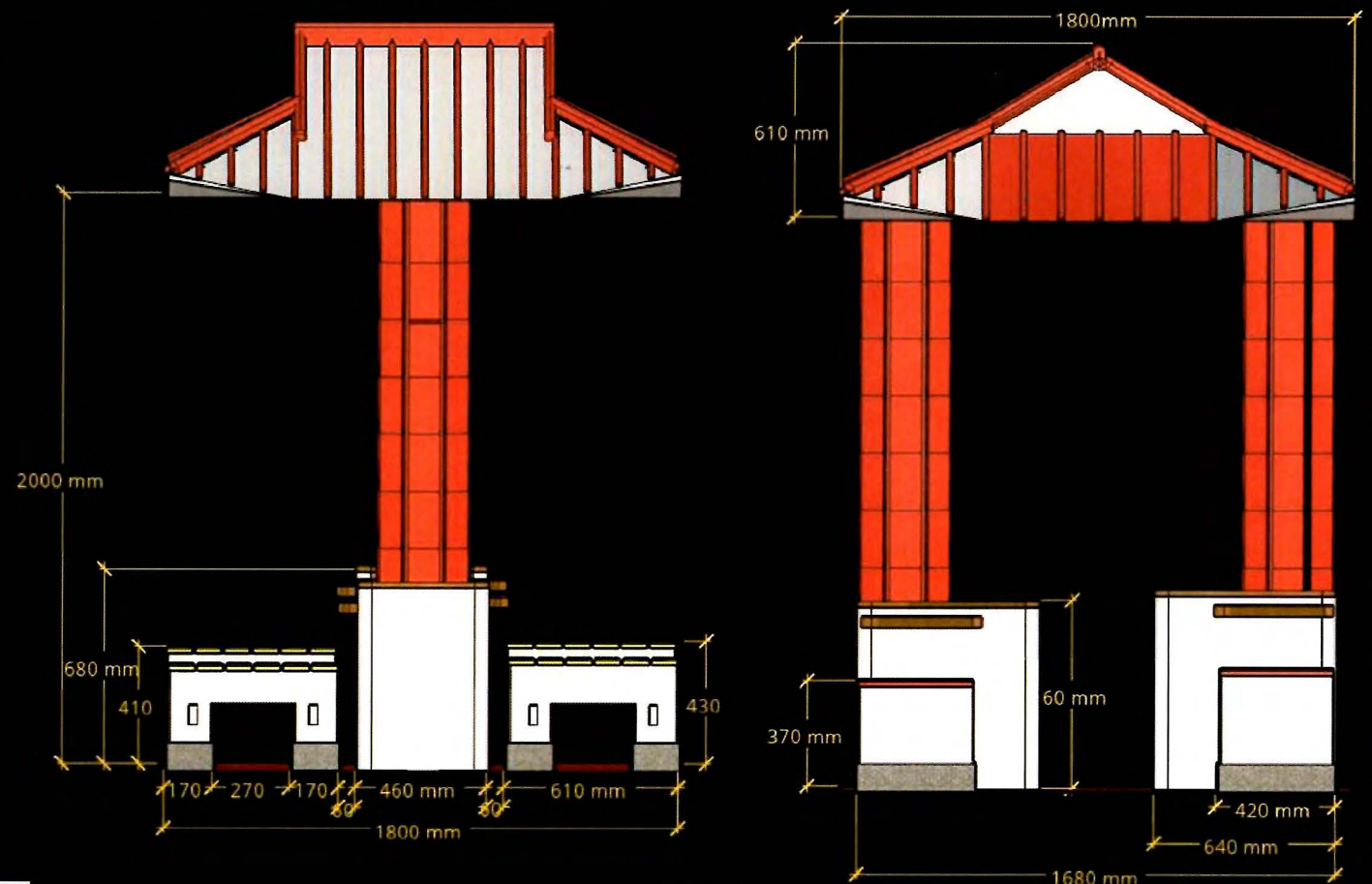
ベンチスペースの床は車いす利用を考慮し高低差は付けずに朱塗りの塗装のみとした。
素材：鉄骨・木材



平面図

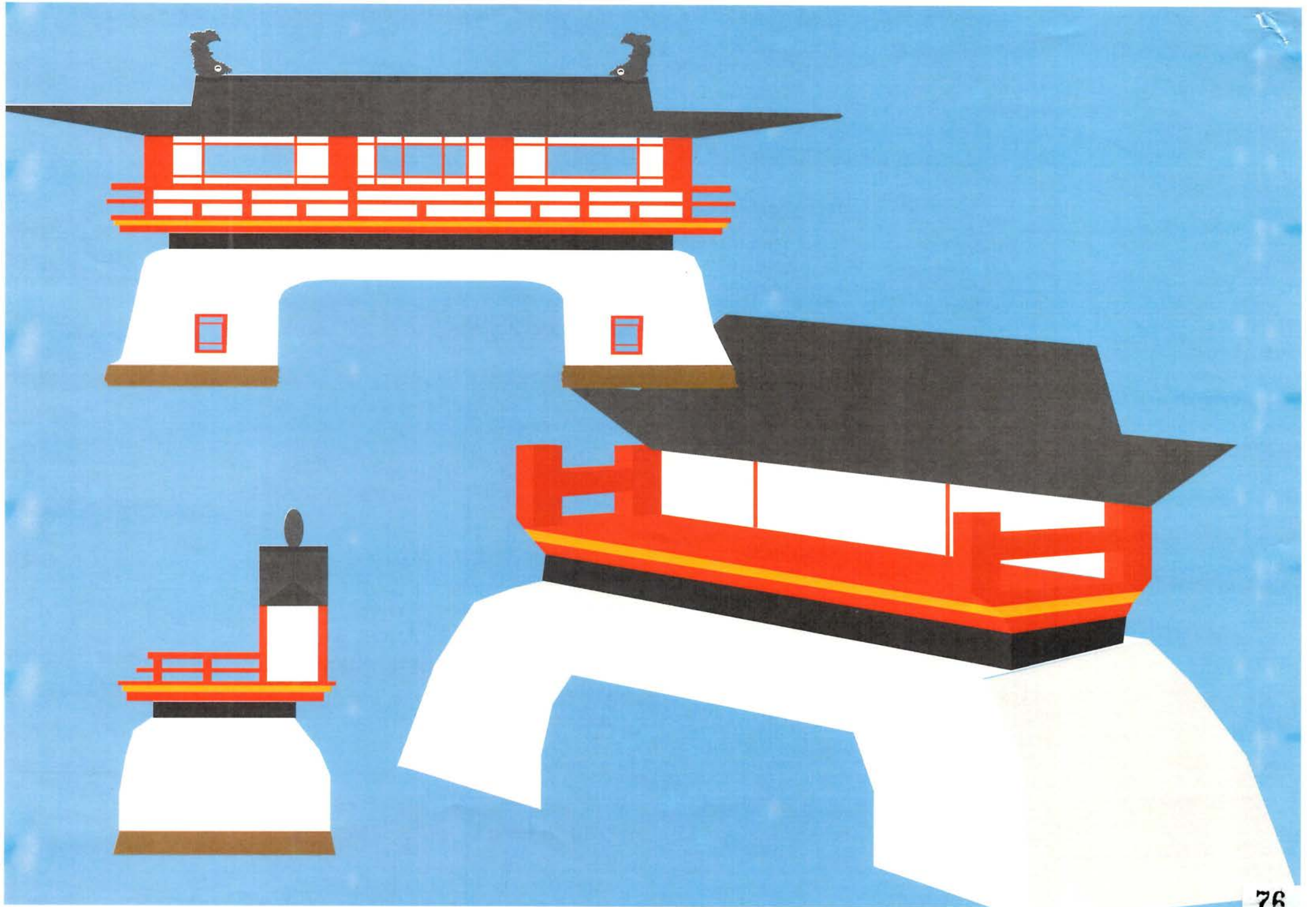


外観パース



正面図

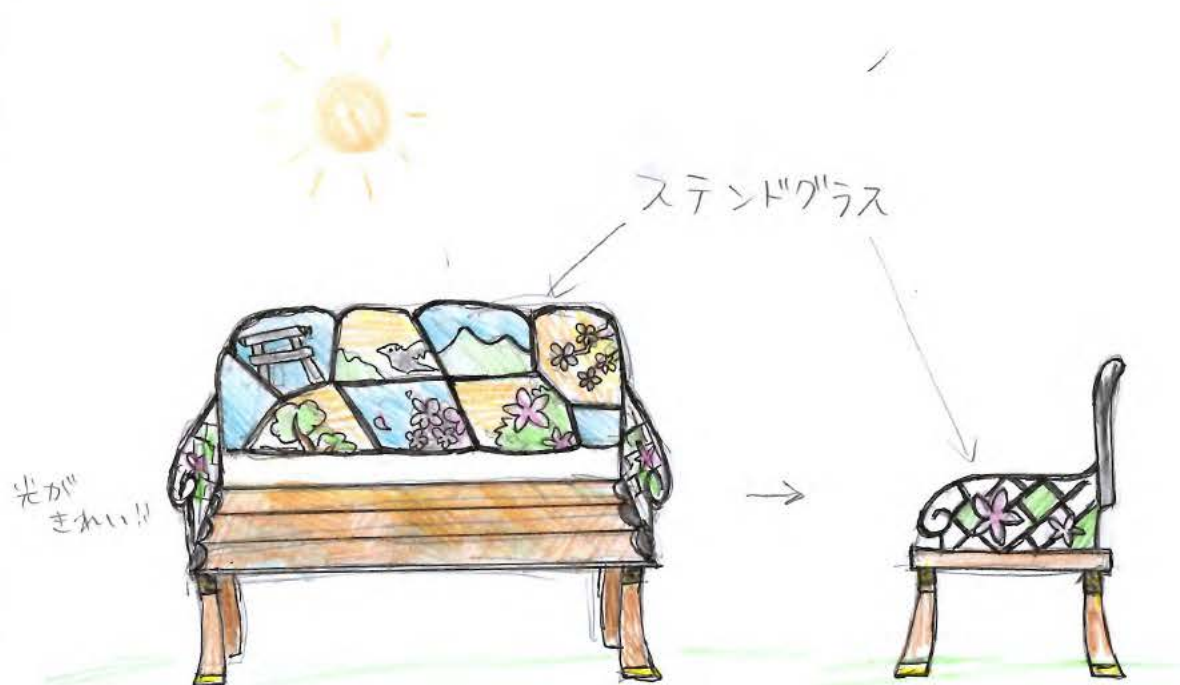
側面図





ベンチデザイン

画材 (色鉛筆・クレヨン・絵具) はなんでも大丈夫です。



なぜこのデザインにしたのか？

武雄の風景をせもたれのスタンドグラスにして、手をかけるところは、みふね山のつつじをイメージしました。
日の光があたるときれいで写真を撮りたくなるようにしました。